



2017年7月1日土曜日の午後、僕のオフィスにひとりの40代の男性が訪れました。12時から17時、たっぷりとお話できました。彼は、奥さまの病気にについて心配する優しいご主人でした。彼とは以前より面識があり、初対面ではなかったので話しやすさもありました。でも、彼と奥さまの病いについて話すことは初めてのことでした。後日、彼からこんな感想をいただきました。病理医が専門知識を持ちながら、じっくり話すことの意義があることを実感しました。

●後日、相談に訪れた方からいただいたメッセージです。

夜分にすみません。

昨日は、本当に貴重なお時間をありがとうございました!

何人か参加者がいたら、あまり私のことも聞けなかったと思いますので、結果的に私が独占?できて聞きたかったことも全部聞けましたし、

先生の建築に関わる興味深いお話や 経験談もたくさん聞けて本当に良かったです。

なにより **私のために一生懸命いろいろなアドバイスをして頂いているのが伝わりましたし、とても話しやすい雰囲気のお二人でとても元氣になれたように思います!**

コンサートのチケットも頂いてしまってすみません。

ぜひ参加したいと思っています。

妻のため、家族のため、自分のためにしっかり色々なことを勉強し考えてしっかり生きていきたいと思いました。

また、ぜひお話しさせてください。

よろしくお願いします。

●コメント ; 同席した peer supporter SAYOKO

積極的傾聴と無条件の肯定姿勢こそ、facilitation といえよう。この場合、彼の言うことに積極的に耳を傾け、どんなことも肯定的に受け止めることで、彼は「支持された」と感じ、それが、彼の不安ともいえるマイナス的思考を、これでよしという肯定ゼロ地点に到達する。そこから、彼自身が、自分の志向をプラスに向けて行動できるようになる。結果元氣になる、ということにつながったのだ。マイナスは落ち込み。ゼロ地点は自己肯定。プラスに向かうは、自己実現への道。ということである。

「自分のことは、自分が解決するしかない」は真実だ。真摯なる対話によってこそ、他者がそれに気づける。魂に響くような真摯な関わりは、対話のアプローチだ。このような対話は、「facilitation 的サポート」といえよう。他者の不安に真摯に向き合うとは、他者のところに響くような積極的傾聴、無条件の受容的な対話をする事。ありのままを受け止め真摯な関わり方をすると魂の対話なのです。

■Office ; 「つつみ病理相談所」 pathos223 ■

つつみゆたか

堤寛 医学博士、病理専門医、細胞診専門医

〒470-1151 愛知県豊明市前後町善江 1735 パルネス前後 4 階。412 号室

電話:0562-85-6996 FAX:0562-85-6998 携帯:080-6641-9802

Email:pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL:<http://pathos223.com>

●病理医、つつみゆたかのつぶやき

7/1(土)の午後、「つつみ病理相談所」で開催した初めての「病理医と話そう」に、第一号相談者が訪れました。とてもうれしい、記念すべき半日となりました。

平日は清須市にあるはるひ呼吸器病院に嘱託勤務していますが、土日は「つつみ病理相談所」を活用した地域への貢献をしたいと願い、名鉄本線前後駅前の UR マンション、パルネス前後に事務所を設けました。4月以降、なかなかチャンスを持ってなかったのですが、ようやく今回は初回開催ということになりました。今後とも、毎月1回の原則第一土曜日に「病理医と話そう」活動を継続してゆきたいと願っています。遠慮なく、事前ご予約ください。

さて、今回の相談者(男性)は、2か月前に40代の奥さまが「骨髓異形成症候群」という難病と診断され、治療中の状況でした。汎血球減少症といって、血液細胞の赤血球、白血球、血小板のすべてが減少を示す病態です。骨髓では異常造血細胞が増殖し、正常の造血能が侵されます。時間が経過すると本物の白血病に変わってゆくことの多い厄介な疾患です。私が医学生のはじめは、前白血病状態とか、くすぶり型白血病と呼ばれていました。通常、小児と高齢者にみられます。高齢者では無治療でようすをみることもあります。奥さまへの治療としては、3週間に一度の抗がん剤の点滴と赤血球輸血・血小板輸血が行われています。根本的治療としては、骨髓移植しかありません。骨髓バンクでドナー候補が10名いるそうです。これから最終検査が行われ、数か月以内に骨髓移植治療が行われる段取りだそうです。

血液データをみさせていただくと、赤血球、白血球、血小板いずれも著明に減少しており、感染症や出血が怖い状況といえます。感染症ではとくにカビが厄介なので、ほこりを吸い込まないようにすることの大切さを確認しました。カビは乾燥に強いので、ほこりの中に潜んでいると考えた方がいいのです。マスク着用はけっこうつらいですが、外出時のみならず、掃除のときも注意したいです。ハウスダストを吐き出さない掃除機を購入すること、掃除は家族の仕事にすることを提案しました。

ドナー候補が10名いるということは、HLAという白血球の型がぴったりと合うドナーに巡り合える可能性が高いこととなります。日本の骨髓移植の成績はとてもいいですし、名古屋大学系列の血液疾患グループは日本のリーダー格といえます。つまり、経験深いすばらしい専門家集団が治療にあたるはずで、安心して治療を受けるようにアドバイスしました。

ドナーのボランティア精神にも思いをはせてほしいことも伝えました。腰の骨から大量の骨髓血が採取されるはずで、仕事を休んで、しばらく入院することになりますし、採取後に局所の痛みが強い場合もあるようです。ドナーがだれだかは教えてくれませんが、感謝の気持ちを持ち続けてほしい。そして、そのことを2人のお子さんを含む家族全員でシェアしてほしいとも伝えました。

私が大好きだったおばあちゃんを白血病で亡くしたのは小学校5年生のときでした。当時、高齢者(といっても68歳でした)の白血病が半年もつたのは珍しいと言われたそうです。もう50年以上前のことですが、白血病治療の進化には素晴らしいものがあります。

骨髓移植治療までの期間がある程度あることは、治療前に家族全員で骨髓異形成症候群や骨髓移植について勉強できる時間があることを意味します。これも、ほかのがんと違う利点だし、生かさないとつたいないとアドバイスしました。

実は、病気と関係のない雑談も多かったのですが、それも含めて、じっくりとお話しできたと思います。自然体でお話ししました。長い時間本当にお疲れさまでした。奥さまによろしくお伝えください。

■Office ; 「つつみ病理相談所」 pathos223 ■

つつみゆたか

堤寛 医学博士、病理専門医、細胞診専門医

〒470-1151 愛知県豊明市前後町善江 1735 パルネス前後 4階. 412号室

電話:0562-85-6996 FAX:0562-85-6998 携帯:080-6641-9802

Email: pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL: <http://pathos223.com>